

青梅市文化財ニュース

第357号

平成29年7月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

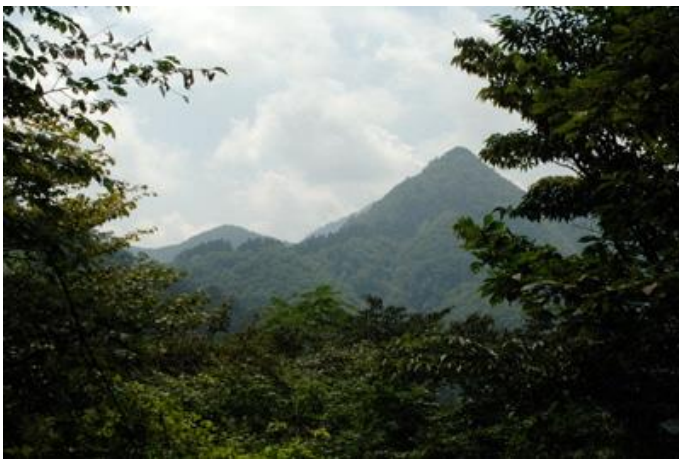
おぐなしゃ 男具那社

御岳山の西南にそびえる山は、奥の宮・奥の院などと呼ばれ、大岳山と御岳山との間の三角にとがった姿は、天気がよければ都心からも見ることが出来ます。この1077mの山頂から20mほど下がった場所に、御嶽信仰の一翼を担う日本武尊やまとたけるのみことを祀る男具那社が鎮座しています（写真－1）。



写真－1 男具那社

男具那社いつけんしゃながれづくりは一間社流造の本殿で、平成17年から18年にかけて、青梅市の補助事業として修復されました。徒歩一時間以上かかる場所にある神社ですから、職人はとても苦勞しました。まず社殿を解体し、部材を少しずつ人力で運び出し、傷んだ柱などを補修した後、表面に本漆を施し、他の資材と一緒にヘリコプターで搬送しました。そして、組み立てや屋根葺きは、長い山道を登山し、数ヶ月かけて完成しました。朱の漆塗本殿と棟門むなもんは、雨風から守るため白木の覆舎おおいやがかけられ、この山奥にあるとは思えない程の重厚な社殿が復元されました。



写真－2 奥の宮

この男具那社の祭礼は5月15日、周辺にシロヤシオが咲く頃に行われます。祭具や装束は梯子に背負って運び、正式な出で立ちで祭礼が執行されます。毎年決まって参列される方も数名おり、祭儀の後は、その場に敷物をして直会なおらいが行われます。

奥の宮は、山全体がチャートと呼ば

れる堅い岩で形成され、東側中腹の数十メートルに及ぶ一枚岩は「オーム岩」と呼ばれ、『新編武蔵風土記稿』には「この岩に向かひてよべば、その聲相應和することこだまのごとし、よりて名とせり」と記されています。また、同書にこの山は甲籠山こうろうさんと記され、この岩倉に日本武尊が、武具を収めたと伝えられた山です（写真－２）。

日本武尊は、幼名を小碓尊おうすのみこと、またの名を日本童男やまとおぐなといい、ここから社名がつけられたようです。第12代景行天皇の皇子で、九州や関東を平定した物語が、古事記や日本書紀に詳しく記されていますが、その移動経路などは記紀で違いがあり、各地に様々な英雄伝説となって残されています。

また、日本武尊は大和の山々を深く愛しており「大和は国のまほろば たたなづく 青垣山うらわごもれる 大和し 美し」と詠んでいます。奈良県南部の吉野には、蔵王信仰の本山である金峯寺があり、周辺の山々は山伏の修行場でもあります。江戸時代まで御嶽神社も、関東における蔵王信仰の中心地として知られていました。この御岳・奥の宮・大岳・御前山といった山々は、まさに大和の山脈に似ていることが、その一因と思われます。その中で、富士山型の落ち着いた姿の奥の宮は、日本武尊を祀るのにふさわしい場所のように思えます。

（文責 須崎直洋）